

高浜地区振興会 広報

はと 九鳥の峯 みね

No.19
2011
3.31

平成23年3月31日



主な内容

パネルディスカッション	2P
庄屋家の歴史を見た	2P
高浜ふどうを復活させよう	2P
未来を創ろう	2P
自主防災会訓練	2P
高浜に積雪が	3P
火の用心	3P
オーケストラがやって来た	3P
おね火	3P
子ども節分会	3P
天草つんでフェスタ	4P
成人式	4P
西校の今	4P
編集後記	4P

高浜のなつかしい未来へ…… シンポジウムと町歩きを開催しました。

白砂青松百選の白鶴浜とともに、文化11年(1814)の大火後、町並みが整理され、どこか懐かしい景観が残る高浜。加えて、天草陶石を産し、高浜焼をはじめとする歴史と文化を刻みながら、海に向かった近代から現在に至る高浜。

この高浜の魅力を、学識経験者や専門家の視点から未来に繋ごうと、熊本県の支援を受け、九州大学大学院教授・藤原惠洋氏、大分帆足家15代当主・帆足耕一郎氏(富春館代表取締役)、写真家・藤田洋三氏を迎え、2月5日(土)高浜公民館で「夢あるまちづくり創造事業・高浜シンポジウム」を開催しました。

会場には250名を越える参加者が集い、高浜のなつかしい未来への熱い意見が交わされました。

パネルディスカッション

田崎
茂子

シンボジウムでは、藤原教授から旧庄屋上田家住宅は近世近代を繋ぐものでこれが遺されている事は非常に珍らしく、価値が高いなどの解説がありました。

いる景色を再現し、ワインづくりを発展させていきたい。先人達が、未来の高浜を考え、今の高浜を作つたように、現在の私達が未来を考え、今何を成すべきかを考えていくのが使命であります。これらが、「高浜の宝」になるだけでなく、「天草の宝」「熊本の宝」、さらに「国の宝」となる様にとの意見が出されました。

庄屋家の歴史を見た



家の庭に県建築士会や多くの人達が集まり行わされました。散策グループと内覧会が分かれて説明があり、藤原先生より上田家の屋内を文化年間の庄屋家の間取りや材料、役割など詳しく説明を受けました。参加した方も熱心に勉強されており、暗くなるまで続いた有意義な内覧会で、文化年間約197年前の上田家7代庄屋宜珍に思いを寄せた一日でした。

高浜ぶどう園
復活させよう

未来を創ろう!
プロジェクトが発進



3月
1

A photograph showing a group of approximately 20 people seated around a long, rectangular conference table in a well-lit meeting room. The participants are dressed in professional attire, including several individuals wearing white coats. A man in a dark suit stands at the head of the table, gesturing as if speaking or leading a discussion. In the background, there is a whiteboard with some handwritten text and a projection screen mounted on a wall. The room has a modern design with light-colored walls and doors.

また昨年、挿し木した分で何本かは2メートル程に生育していますので、順調に行けば今年葡萄棚に匍わせて見たいと思っています。

かつて五足の靴の旅では「高浜の町は葡萄に掩われて居る、家毎に棚がある、棚無き家は屋根匍わす」と紹介されたように、この稀少な高浜葡萄復活のチャレンジに皆さんのご協力を願いします。

シンポジウムについて「上田家住宅内部に初めて入り魅力を再認識した、どうにかして保存していくたい」「白鶴浜など含め広く高浜を考え欲しい」「高浜葡萄はやりきによつて売れる」「仲間を増やし活性化して行こう」など意見があつた後、班毎ワーケシヨツプ形式で計画づくりを行いました。「陶石のままで

この日は消火器訓練の後、ハウスの中での煙体験では何も見えず方向感覚を無くし、実際に火災の怖さを実感しました。また、今年6月から設置が義務化される住宅用火災警報器について、必ず寝室に設置くださいと説明がありました。

いざという時に慌てないよう皆さんは今一度身の廻りの備えを頼ります。

**日頃の備えが
役立ちます**

自主防災会訓練

振興会ではこの計画にそつて事業を進めて行きたいと申します。皆様のご協力をお願ひいたします。

振興会ではこの計画にそつて事業を進めて行きたいと申します。皆様のご協力をお願ひいたします。

A vertical photograph showing a group of about six people in blue uniforms with caps standing outside a white building with green trim. The building has a curved roofline. Some trees are visible in the background.

高浜に

積雪が!!

12月26日、午前中雨だったのが雪に変わり高浜でも珍しく積雪がありました。白鶴浜の積雪は特に珍しい光景でした。



火の用心

高浜少年消防クラブ

年末警戒



12月28日高浜小学校少年消防クラブの年末警戒が4年生から6年生23名が参加し行われました。この日は強風でしたが徳本圭佑隊長の指揮の下、天草分署と3分団に引率され、規律良く挨拶を受けた後、西通り町中に「火の用心力チカチ」と元気いっぱいに呼びかけていました。

なお、25年4月からは町内の五つの小学校が一つに統合となり、統合小の校舎は高浜

オーケストラが やって來た♪



1月25日天草中学校に神奈川フィルハーモニー管弦楽団が来校し、町内小中高校生徒に演奏会や各楽器の紹介と天草中生徒との合同演奏などが行われました。

この事業は文化庁「子ども事業」で子ども達が優れた舞台芸術体験術に身近に触れる機会を提供し芸術を愛する心を育て豊かな情操を養うなどを目的に実施されました。

この日初めて生演奏を聞いた子ども達や地域の方もオーケストラの熱演に感激の様子でした。

病気に ならないように

おねは高浜に伝わる七日正月の伝統行事で鬼など厄災をもたらすものが村にやつて祭りとして行われ残り火で餅を焼き、七草粥をつくり無病息災を祈願する風習が伝えられてきました。

毎年1月7日、櫛を組み各家庭から門松や正月飾りを持ち寄り「おね火焼き」を行います。

今年は火入れ時には風もなく上方まで良く燃え上がりま

した。生活部の皆さんが丹誠込めた「ぜんざい」に子ども達は竹の割れる音にびっくりしながら、美味しく頂きました。



福は内! 福は内!

（子ども節分会）



2月3日隣峰寺で、恒例の「子ども節分会」が開催され、住職と高浜小6年の島田敬吾さん福田菜海さんが豆まきを行いました。お寺の豆まきのかけ声は「福は内」「福は内」で、これはお寺には鬼はいなく鬼は人の心中にあると説明がありました。

豆まきの後、「ひよつこの会」のお話に聞き入り、上海出身6名の高浜の縫製工場研修生から中国語や歌を教えて貰い、天草西校ボランティーズとのゲームを楽しみました。

最後は恒例の大数珠回しでお菓子が当たると大歓声があり普段静かなお寺に響き渡っていました。

温かい善意のご寄付
ありがとうございます

高浜地区

(平成23年3月1日現在)

人口 1,441人

男 664人

女 777人

世帯数 682戸

高齢化率(65才以上)

621人(43.10%)



快気祝い
秋田 兼廣様（上河内）
山沢紀美子様（中向）

香典返し

上田 積穂様

（故・和江様）

中向

中田 和孝様

（故・光信様）

諏訪

清水 満義様

（故・福代様）

白木



辻イト子さんの講演

2月20日(日)天草勤労者体育館を主会場に2011天草つんのでフェスタが開催されました。このフェスタは男女共同参画週間に情報交換や交流を深め、その意識高揚などを目的として行われました。本年度は「みんなで手をつなぎ心豊かにまちづくり」をテーマに天草町会場で開催されました。

開会行事では同フェスタの大里集実行委員長や安田市長の挨拶の後開幕。寸劇やパネルディスカッション、障がいのある子を持つ主婦タレントの辻イト子さんの基調講演などがあり、同時に開催された物産展には「青空市」も出店し、賑わいを見せていました。

天草つんでのフェスタが開催

天草町成人式立派な成人になります



高浜地区のみなさん

1月3日、平成23年天草町成人式が高浜公民館において開催されました。天草町では56名の方が、そのうち高浜地区では23名の方が成人を迎えました。



卒業生の進路について。大学は長崎大学教育学部等三人。高看護専門学校等二

式では岡部教育長をはじめ来賓の方々のご祝辞を頂いた後、成人者を代表して二ノ宮大地さんの市民憲章朗読や岡田綾香さんの誓いの言葉が述べられ、交通安全宣言では、小林将大さんより、「交通安全の輪を広げ安全で快適な交通社会の実現に努めます」と元気よく宣誓が行われました。

西校の今

天草西校 教頭

土田圭司

人。専門学校は新大阪歯科技工士専門学校等五人。就職はサトウ織維等四人。

編集後記

この冬は高浜でも数十年來なかつたほど積雪(本誌鳩の峯3面で掲載)があり、今年は雪景色の正月を迎えるました。その所為か殊の外寒かつた様な気がしました。しかし、春がもうそこまで来てくれています。さて、春と言えば「新たな歩み踏みだす季節ですね。入學する人、就職する人、第二の人生を始める人等様々いらっしゃることだと思います。また新たな事でなくとも「何事か為す」にはとてもすばらしい季節でもあると思います。

この春が老若男女の皆さんに良い節目の春であることを願っています。この春が郷土意識が稀薄になりがちなご時世ですが、この春に郷土高浜を旅立つ皆さんに新天地でもとところで昨今郷土意識が稀薄になりがちなご時世ですが、この春に郷土高浜を旅立つ皆さんに新天地でも

願つていいことを

願つて

願つて